ヘブル語のアラカルト

鷲の翼に乗せて

No.16

【新改訳2017】出エジプト記19章1～6節

1 エジプトの地を出たイスラエルの子らは、第三の新月の日にシナイの荒野に入った。

2 彼らはレフィディムを旅立って、シナイの荒野に入り、その荒野で宿営した。
イスラエルはそこで、山を前に宿営した(※ここでの「山」とはミディアンの地にある山)。

3 モーセが神のみもとに上って行くと、【主】が山から彼を呼んで言われた。「あなたは、こうヤコブの家に言い、イスラエルの子らに告げよ。

4 『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た。

5 今、もしあなたがたが確かにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。

6 あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。』これが、イスラエルの子らにあなたが語るべきことばである。」

出エジプトしてからシナイの荒野での宿営地

1 エジプトの地を出たイスラエルの子らは、**第三の新月の日にシナイの荒野に入った**。

鷲の翼に乗って

【新改訳2017】出エジプト記19章4 節
『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た。

●「鷲の翼に乗せて」とは、比喩的な象徴的表現です。それは祭司たちの働きによってという意味です。事実、イスラエルの民たちは祭司であるモーセとアロンの指導の下にエジプトから脱出し、シナイ山の麓までやって来たのです。

鷲の翼に乗って

●「翼」は「カーナーフ」(כָּנָף)で、それは「衣の裾」を意味します。裾にある紐(「ツィーツィート」צִיצִית)も同様に「神のみことば」を意味しています。12年間長血で苦しんでいた女が、イエシュアの衣の房に触れた時にどうなったでしょうか。みことばの力がイエシュアから流れ出て、彼女を癒やしました(マタイ9:20～22参照)。

●メシアの翼による「癒やし」(＝救い)は、神にしかできない新しい創造なのです。

【新改訳2017】マラキ書4章1～2節

1 「見よ、その日が来る。かまどのように燃えながら。その日、すべて高ぶる者、すべて悪を行う者は藁となる。迫り来るその日は彼らを焼き尽くし、根も枝も残さない。――万軍の【主】は言われる――

2 しかしあなたがた、わたしの名を恐れる者には、**義の太陽が昇る**。

その翼に癒やしがある。あなたがたは外に出て、牛舎の子牛のように跳ね回る。

※「見よ、その日が来る」とは終わりの日に神のさばきの日が来ることを預言しています。その時、主の名を恐れる(＝信じる)者には、「義の太陽」が昇るとあります。「義の太陽」とはメシア。その翼とは「大祭司キリストによる神のことば」を意味しています。)

【新改訳2017】出エジプト記19章5～6節

〔イスラエルの民に対して〕

5 今、もしあなたがたが確かにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。

6 あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。』これが、イスラエルの子らにあなたが語るべきことばである。」

(1)「わたしの宝」

(2)「祭司の王国」

(3)「聖なる国民」

【新改訳2017】Ⅰペテロの手紙2章9～10節

〔教会に対して〕

9 しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです。

10 あなたがたは以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、あわれみを受けたことがなかったのに、今はあわれみを受けています。

※以前は神の民ではなかった私たちは、鷲の翼に乗って神の民とされたのであり、これからも、鷲の翼に乗って、主のために導かれていくのです。